



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和4年度 授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとし、年間2セット実施します。高知市の中学校社会科の拠点校である大津中学校の第3回教材研究会（9月16日実施）、第4回授業研究会（10月5日実施）における本単元の学びの様子を紹介します。

単元名 公民的分野 憲法が保障する基本的人権

学習指導要領解説 p.150～154

単元目標

- 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。
- 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であると理解する。

【知識及び技能】

- 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
- 現代や未来の社会に見られる人権課題の解決を視野に主体的に関わろうとする。

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

ゴールの子供の姿

自分たちが当たり前だと思っていることが、基本的人権として日本国憲法で保障されていることの意義を理解している。

予測困難な時代になっても、身の回りにある人権課題に気づき、よりよい社会の形成者として多面的・多角的に考え、社会に参画していこうとする。

指導上の課題

- ① 基本的人権の内容や憲法の条文の学習に偏りやすく、生徒が主体的に学習する場が不十分である。
- ② 憲法を通して、社会の在り方や社会事象の背景について捉えさせる視点が不十分である。

授業改善のポイント

- **小中の系統的な指導の在り方を意識する**
小学校での憲法学習を基に、具体的な人権の学習を通して、法に基づく政治の意義、行使の在り方について、考察する学習を重視する。
- **社会の在り方や社会事象について、課題を追究したり、解決したりする活動を充実させる**
社会との関わりを意識して、基本的人権の保障における課題を見だし、課題解決の見通しを持って、他者と協働的に追究しながら、新たな課題を見だしたりする学習過程を設定し、本単元の次の政治学習につなげる。

小学校 イ（ア）日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。

学習指導要領解説 p.101

中学校 イ（ア）我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。

学習指導要領解説 p.151

単元構想

単元を貫く課題 これから先、基本的人権を守るために私たちがしなくてはいけないことは何だろう。

課題把握

- 1 基本的人権の尊重とはどういうことだろう。
- 2 日本国憲法では平等権はどのように保障され、どのような課題があるのだろう。
- 3 今、日本国憲法で自由権が保障されているのはなぜだろう。
- 4 社会権にはどのようなものがあり、なぜ保障されるようになったのだろう。
- 5 人権を守るために、保障されている権利は何だろう。
- 6 権利と権利がぶつかった場合、どうしたらいいのだろう。

課題追究

課題解決・新たな課題

- 7 社会の変化によって、どのような新しい人権が誕生したのだろう。
- 8 **20年後の日本で必要とされる権利は何だろう。（本時）**
- 9 これから先、基本的人権を守るために私たちがしなくてはいけないことは何だろう。

どうい課題があるのか、それはなぜなのか、追究していく。

よりよい社会の形成者として社会に参画していこうとする子供たちの育成を図る。

本時の展開

導入 本時の課題を確認する。

展開

- 20年後の日本で必要とされる権利について考える。（個人）
- 新たな権利が妥当かどうかを考え、ジャムボードにアドバイスを記入する。（グループ）
- 意見を基に再考してまとめる。（個人）
- 全体で共有する。

まとめ 本時を振り返る。

現代社会の特色や想定される社会の変化を基に、対立と合意、効率と公正に着目して、新しい権利について、多面的・多角的に考察している。 【思考・判断・表現】

教材研究会 9月16日（金）

協議の視点

1. 単元を貫く課題と各時間のつながりが見えるものとなっているか。
2. 本時の目標に向けて、指導と評価の一体化を図る授業展開になっているか。

協議の視点 1について

【良い点】

- ・ 身近な事例を取り上げることで知識の獲得や考察ができ、目指すゴールの子供の姿に近づけていけるような単元構想になっている。
- ・ 子供たちが自分ごととして考えられるようなキャッチーなものとなっており、知識をつなげていけるような単元構想となっている。

【改善点】

- ・ 第8時（本時）の問いと単元を貫く課題との関連性が不十分。
- ・ 課題追究の場面における具体的な指導の手立ての設定が不十分。
- ・ 日本国憲法に基づく政治の意義の理解が不十分。

→ **既習の知識を関連付け、活用する学習過程**になるように見直す。

協議の視点 2について

【良い点】

- ・ 単元の初めに資料を提示することによって、既習の知識と関連させ、考察できるような手立てがされている。

【改善点】

- ・ 批判的思考等を促すことによる深い理解に導く手立て。（GIGAタブレットの活用等）
- ・ 子供たちが考える権利の妥当性について、どう扱うか。

→ **社会的な見方・考え方を活用する学習活動**になるように見直す。

参加者より

- ・ 「中学校ならではの憲法学習」について、主権者教育の視点を取り入れた単元デザインについて学校提案を基に学ぶことができた。
- ・ 各時間で単元を貫く課題にどのように迫っていくか、そのための各授業の課題をどのように設定するかが大切である。

教材研究会を受けて
・本時の問いの見直し
・指導と評価の見直し

- **本時の問いの見直し**… 「これから先の社会でどのような人権(権利)が必要になるだろう。」
- **指導と評価の見直し**… 既習の知識を活用するための手立ての明確化

※ICTを活用した既習の知識の可視化

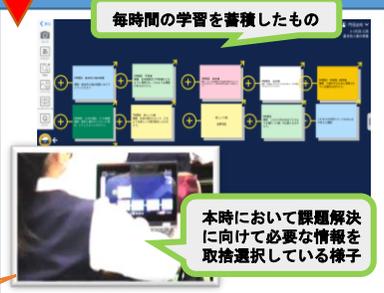
Point① ICTを活用した既習事項の可視化

「既習の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念としていく」ことが重要です。

(学習指導要領 p.171)

本単元では

毎時間追究してきた基本的人権に関する身の回りの事例や人権保障における政治的役割や課題等について、収集した情報(資料)や自分の考えをロイロノート(通常ノート)にまとめ、蓄積していく。課題解決の際には、各時の学びと関連付けて考察できるようにする。



Point② 社会的な見方・考え方を活用する学習活動の工夫

「深い学びの実現のためには、『社会的な見方・考え方』を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動」が重要です。(学習指導要領P.15)

本単元では

単元を通して、基本的人権について「現代社会の特色」「効率と公正」「多様な立場の人々」「憲法との関連」の視点を持たせる。本時では、社会的な見方・考え方に基づいた根拠を示しているか、妥当かどうかを班で検討し、ロイロノート(共有ノート)を活用し、助言をしようことで再構築を図っていく。

自分の考え さんの考え
少子高齢化の状況で年金も少なくなっている中お年寄りの方で必要になる便利な機械が買えない人が増えてくると思ってお年寄りの方に支障したり機械の値段を安くするなと思って、新しい権利が増える中で今までの権利もさらに時代に合わせた変化していくとよくなると思った。

友達からももらった助言
アドバイスカード
少子高齢化に着目して安心や安全を追求していいと思います。

時代を変わるにつれて機械も進歩して安くなるのも嬉しいけどどうするべきか考えるのはいいけども少し不安はありました。

再構築

講師講話

愛媛大学教育学部
准教授 井上 昌善 先生



第3回教材研究会より(一瞬抜粋)

● 今回の授業モデルについて

★考察に基づいた構想をする授業づくり

市民として公正な世論の形成者になるためには他者と対話あるいは議論しながら、自分自身の考えをより説得的なものに精緻化していく学習活動が必要となる。考察にとどまらない構想型の授業を实践、提案していく必要があるが、そこで重要になるのは考察に基づく構想になっていくので、構想単独では考えられないということである。選択・判断するためには、基盤となる知識があるので、選択・判断しながら知識も定着していく学びの在り方を考えていかなくてはならない。

★公民学習の本質

今の社会は、すべての人の人権保障ができてない、不十分であることに気付かせることが重要である。その不十分さが課題であり、その課題を克服するため、あるいは課題に対する取組を充実させるために、自分たちがどんなことをしていけばいいのかを考えさせていくことが公民の学びの本質である。

人権を取り扱う社会科の授業は、民主的な社会を実現するために、実際にどんな問題が起きているのかをフォーカスしていかないと社会科の授業にならない。そこが人権教育と社会科教育の違いである。

● これからの授業づくりのポイント ~授業づくりをする上で大事な視点~

- ① **目標**…社会的弱者の視点から政策を批判的に考察して、公正に判断する力の育成。
 - ② **内容**…社会問題や課題、人権保障をめぐる対立や解決方法。
 - ③ **方法**…社会問題の解決方法である政策の効果や妥当性、影響について「個人の尊重」から考えさせること。
- ※ここで言う「個人」は「多様な立場の方」「社会的弱者の方」を踏まえたもの。

※ 評価については、目標に沿った評価活動を実践すること、評価規準を構築すること、その際、子供たちと共創することを重視する。

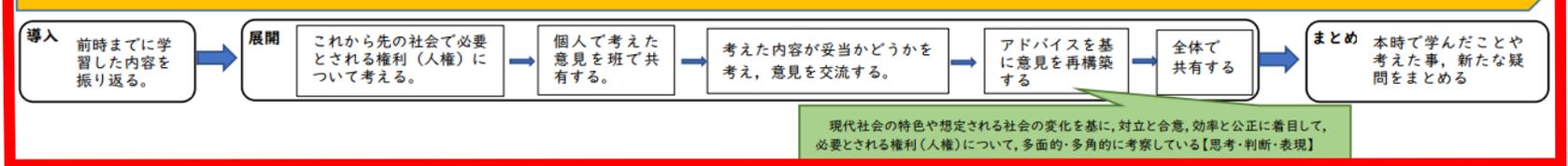
本時の目標
現代社会の特色や想定される社会の変化を基に、対立と合意、効率と公正に着目して、必要とされる権利(人権)について、多面的・多角的に考察することができる。

単元を貫く課題

これから先、基本的人権を守るために私たちがしなくてはいけないことは何だろうか？



本時の展開



現代社会の特色や想定される社会の変化を基に、対立と合意、効率と公正に着目して、必要とされる権利(人権)について、多面的・多角的に考察している【思考・判断・表現】

参加者より

- 【良かった点】
ロイロノートを活用し、アドバイスをし合うことで、自分にはない視点で捉えることができ、多面的・多角的に考察する手立てがされていた。
- 【改善点】
・子供たちの「効率と公正」の視点が不十分。
・子供たちが考えたものに対して、問い返すこと等によって深い学びにつなげる指導が不十分。
・課題に対する焦点化が不十分。

- ・課題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくりについて考えることが出来ました。単元を通しての課題設定と育成したい資質・能力の明確化など、自校でやらなければいけないことが分かりました。
- ・憲法学習において立憲主義の考え方をしっかりと捉えさせることは大切なので、そういった単元開発をしていきたい。また、現代社会の事象を既習した概念を用いて考察していくことを意識していきたい。
- ・公民の学習は今を生きる生徒たちに関連する教材を準備し、調べ、考えることで付けたい力を育成できることが再確認できた。教科会の中で新しい教材を出し合い、教師も多面的・多角的に授業づくりをしていく。

協議の視点

本時の目標に向けて、指導と評価の一体化を図る授業展開になっているか。

本単元を通して、「対立と合意、効率と公正」等の視点を、常に意識しながら様々な社会的事象を捉え、積み上げてきたものを基に本時で活用させたかったが、生徒の姿からは、それが十分見られなかった。その原因の一つとして、単元構想の中で、視点を常に意識させるための課題設定や評価が不十分だったことが考えられる。しかし、本時の授業展開の中で、妥当性を検討する際、批判的思考をしている生徒が見られたことはこれまでの取組の成果であると考えられる。これからの公民学習の中で、身に付けさせたい資質・能力を確実に付けるために、単元構想をしっかりとしていきたい。



授業者 門田圭祐 教諭